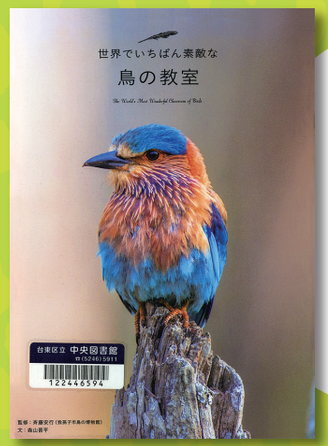


『世界でいちばん素敵な鳥の教室』

斉藤安行／監修　森山晋平／文
三才ブックス

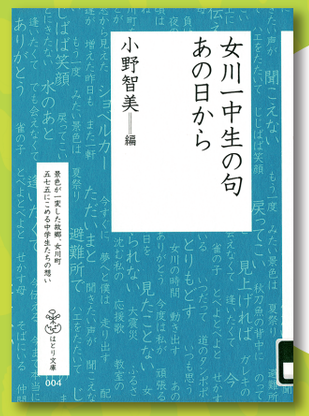
鳥が上手に飛べるのはなぜ？
ワシとタカは、なにが違うの？
そういった疑問にわかりやすく答えてくれる本です。
色鮮やかな鳥たちの写真を眺めながら、鳥に詳しくなっちゃおう！

シリーズ　『世界でいちばん素敵な夜空の教室』
『世界でいちばん素敵な昆虫の教室』など

『凍てつく海のむこうに』

ルータ・セペティス／作　野沢佳織／訳
岩波書店

敵兵に見つかったら殺されてしまう。そんな恐怖と絶望の中、孤独に戦火を逃れてきた若者たち。
窮地を救いあい、信頼関係を築きながらも、それぞれ人に言えない重大な秘密を抱えていた。



『女川一中生の句　あの日から』

小野智美／編
羽鳥書店　はとり文庫

何でもない日常の中で起きた東日本大震災。
被害を受けた宮城県女川第一中学校で震災後に俳句の授業が行われた。俳句に紡がれた言葉とその活動を一人の記者が追う。
彼らの言葉に何を感じますか。

『本当にある！変なことわざ図鑑』

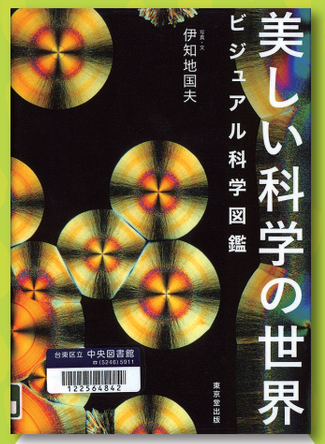
森山晋平／文　角裕美／イラスト
プレジデント社

あなたにはこの意味が分かりますか？
ええ～なになに「死に馬が屁をこく」に「飛ぶ鳥の献立」？
日本人なのに聞いたことのない諺が世の中にはこんなにあるのです。
無駄って面白くて大事～。

『渦森今日子は宇宙に期待しない。』

最果タヒ／著
新潮社　新潮文庫nex

私、渦森今日子は、アイスが好きで、友達が好きな、１７歳の高校生の宇宙人。本名、メソッドＤ２。
学校生活は楽しいけど、部活に体育祭に進路に、問題の連続です。宇宙人だって悩みはつきない！



『美しい科学の世界 ビジュアル科学図鑑』

伊知地国夫／写真・文
東京堂出版

パッと見、アート作品の写真のようですが、実は私たちが普段目にしているものの姿なんです。
顕微鏡や一眼レフカメラを通して見える不思議な別世界。科学の美しさに触れられる本です。

『駅鈴』

久保田香里／作　坂本ヒメミ／画
くもん出版

舞台は奈良時代。国の一大事を伝えるために置かれた「駅家」に生まれ育った一人の少女・小里の物語。
女の子でありながら駅家で働く「駅子」になりたいと願う小里に想い人も現われ……。

『3つ数えて走りだせ』

エリック・ペッサン／著
平岡敦／訳
あすなろ書房

二人が進む先に世界はひらけ、空気が肺を満たす。疾走する両足は、アスファルトに心地よい音を響かせる。
ただひたすらに「走る」ことで未来を切り開こうとする13歳の少年たちの一週間の物語。

『ウェストール短編集 遠い日の呼び声』

ロバート・ウェストール／作
野沢佳織／訳　宮崎駿／装画
徳間書店

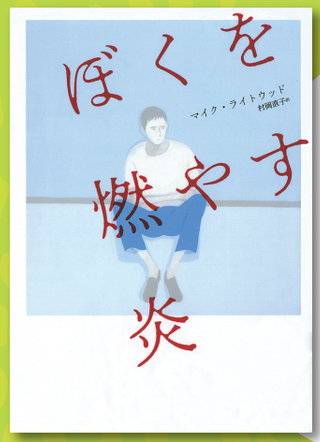
英国を代表する児童文学作家の短編集。主人公は、ほとんどがまだ年若く、それゆえ特有の苦しみもある。しかし決して悲観的ではない。ユーモアあり、ホラーあり、人生の光も見える極上の物語。

シリーズ　『ウェストール短編集 真夜中の電話』

『ひかり舞う』

中川なをみ／著　スカイエマ／絵
ポプラ社

時は安土桃山時代。父が討ち死にし、7歳にして独り立ちの道を歩む少年。彼が選んだ生きる術は針仕事だった。
時代の荒波に翻弄されながらもまっすぐ生きた、平史郎と彼を取り巻く人々の物語。



『ぼくを燃やす炎』

マイク・ライトウッド／著
村岡直子／訳
サウザンブックス社

僕が僕であるというだけで何がいけないんだろう？
高校生オスカルは、ゲイである自分を侮辱してくる同級生や暴力的な父親に悩み傷ついていた。このままじゃダメだ。そう思ったオスカルは……。

『子どもの難問 哲学者の先生、教えてください！』

野矢茂樹／編著
中央公論新社

今までに一度は思ったことがある疑問を、哲学者たちが独自の解釈でひもときます。子どもだけでなく、大人でも難しいかもしれない疑問ばかりです。

『学校では教えてくれない差別と排除の話』

安田浩一／著
皓星社

外国人労働者、ヘイトスピーチ、沖縄。これら問題への差別的な言動は度々ニュースに取り上げられます。
著者は外国人労働者の取材を皮切りに、社会になぜ差別と排除が居座り続けるのか考えます。